

# 学 校 便 り

滑川市立西部小学校 H29. 3. 14

学校教育目標



「三つの花」を咲かせる西部っ子

にこにこ花 楽しくあいさつができる子  
ほかほか花 「あったか言葉」をつかう子  
きらりん花 キラキラと自分らしく輝く子

## アクティブな生き方

新聞やニュースで「アクティブ・ラーニング」という教育用語を耳にすることが多くなりました。中央教育審議会が検討する学習指導要領の全面改訂の目玉の一つの学習・指導方法です。教員からの一方向的な講義で知識を覚えるのではなく、子供たちが主体的に学習し、仲間と深く考えながら課題を解決する力を養うことがねらいとなります。これまでも学校では、学習に対する主体性や自主性を育もうと取り組んできましたが、力不足もあり、十分育て切れていないというのが現状です。

そのアクティブ・ラーニングとともに、いやそれ以上に重視したいのが、生き方そのものです。人としての生き方を主体的なものに変えていかなければ、学びに向かう気持ちも出てくるはずがありません。

身近なことに例をとれば「朝の起床」です。皆さんの家庭ではお子さんを起こしてやりますか？それとも、自分の責任で起きることにしていますか？仮に起こすのを忘れて、学校に遅刻しそうになることがあったとしたら「どうしてもっと早く起こしてくれないんだ」と抗議されることはありませんか？もしそうだとしたら、朝起きることさえ自分ではなく他人の責任になっている証拠です。子供にそう言われて「何言ってるの、自分で起きなさい」と叱るものの、翌朝はかわいそうに思ってまた起こしてやるのです。親の方もまた、知らず知らずのうちに、朝起こすことは自分の責任だと考えてしまっているのです。学校生活でも同じことがいくつもあると反省します。

この朝の起床はほんの一例にしか過ぎません。小さなうちから、少しずつ自分がやるべきこととして身の回りのことを任されてきた子供は、たとえうまくいかないことや問題が生じて、自分で解決する力が育っていきます。また、親や先生が過剰に手を出さない分、自分で悩んだり、乗り越えたりすることが上手になっていきます。それをしないで大きくなり、依存心の強い人間になったところに、急に「さあ、自分の責任でやりなさい」と言われても無理というものです。子供がかわいそうだと手を出し過ぎることは、結局将来の自立の芽を摘んでしまっているのと同じことなのです。

6年生は中学校へ進学し、周りから大人に近い扱いをされることが多くなります。1～5年生の子供たちも一つずつ進級します。進学・進級を一つの契機として、自分で責任をもつことの範囲を広げてやりたいものです。そして、学校でも家庭でも、少なくとも自分の失敗を他人のせいにならず、自分で責任のとろうとする子供にしてやりたいと思っています。

(校長 西元 正史)

## ＜学期末及び新学期当初の主な予定＞

3月14日（火）卒業式予行

3月17日（金）卒業式

3月24日（金）修了式

3月25日（土）～4月4日（火）学年末休業（春休み）

3月29日（水）離任式（いつもより1時間遅れで登校）

4月5日（水）始業式（※新3年、新5年のみ新学級編制）

4月6日（木）入学式（※新1年は2学級の予定）

4月22日（土）学習参観、教育振興会・PTA・児童クラブ定期総会（児童は弁当持参）



## 全校集会・感謝のつどいを行いました

3月6日（月）に、6年生が企画した「みんなで協力！思い出スタンプラリー集会」を行いました。各教室を縦割り班でまわりながら6年生が考えたクイズやゲームに挑戦し、スタンプを集めるという集会でした。6年生は全校のみんなに楽しんでもらいたいという思いをもって、1月から企画をしてきました。1～5年生はスタンプを集めようと、一生懸命クイズやゲームに参加していました。

また、同じく6年生が企画した「6年間ありがとうございますパーティー」も6日に行いました。お世話になった先生方に感謝の気持ちを表したいという思いから、このパーティーを企画しました。パーティーでは、ゲームやプレゼント渡し等が行われました。普段なかなかゆっくり関わることができない6年生と、楽しい時間を過ごすことができました。

卒業に向けて忙しい中でも、在校生や先生のためにと企画してくれた6年生のみなさん、本当にありがとうございました。



## かがやけ！西部っ子

14日（火）に、今年度卒業する6年生とその保護者の皆様より、西部小学校の児童のために「運動会用トロフィー」と「横断幕」を卒業記念品として寄贈いただきました。古くなった運動会用のトロフィー（総合次勝、応援用）に替え、新しく大きなものを用意いただきました。次年度からはこの新しいトロフィーの獲得をめざして、各団が力を発揮してくれることを期待しています。また、学童体育大会等で西部っ子への応援用に使用できる横断幕も合わせていただきました。卒業生から送られたメッセージを見ながら、西部っ子が活躍する姿を楽しみにしています。どうもありがとうございました。なお、品物は卒業式当日に図書室（保護者控室）に展示させていただきます。



## 平成28年度 アクションプランのまとめ

### (1) 学習定着部会

<p>取り組んだこと</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>授業の始まりのチャイムが鳴った時には授業を始められるよう、前時の終わりや休み時間の間に授業の準備をし、ベル着への意識を高める。 ベル着チェック - 3日間、毎時間の始業時にチェック</li> <li>自主学習について学年ごとに手引を作成し、1～3年は学年×10分+10分、4年45分、5年50分、6年60分を目安に家庭学習を呼びかける。</li> <li>自主学習での取組の工夫やがんばりの見られるノートを掲示したり便りで紹介したりして、家庭学習への意欲付けを行う。なかなか取り組めない児童には具体的に助言し、取組を支援する。</li> <li>便り等で保護者の方から家での様子を聞いたり保護者の声を紹介したりして、家庭学習への関心を高める。 家庭学習の手引き（4月配布） 自主学習ノートのコピーの掲示（学年3人ずつ、各学年での掲示）</li> </ul>
<p>最終評価</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ベル着は、低学年では担任の声かけで始業時に着席している児童が増えた。高学年では、各委員会の活動のために遅れる場合もあるが、始業時刻を意識して着席している。</li> <li>家庭学習では、宿題の量や自主学習の内容の工夫で取組への意識は高まっている。しかし、休日も同じように取り組める状況ではない児童もおり、休日の過ごし方について個に応じた指導や家庭との連携が必要であると思われる。</li> </ul>
<p>考 察</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>家庭学習に対する意識は高まっているが、取組内容の工夫や量の調整は今後も必要であると思われる。休日の過ごし方の個人差が大きく、それぞれができる取組を事前に話し合ったり計画を立てたりして意識が途切れない工夫が必要である。</li> <li>自主学習の取組については家庭の協力によっても定着具合が異なるので、便りで呼びかけたり、児童が達成感をもてるような工夫をしたりする。</li> </ul>

### (2) 「あったか言葉」定着部会

<p>取り組んだこと</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>委員会の子供たちが毎朝、児童玄関・正面玄関で挨拶運動をしている。11月には挨拶を返したらゲートが上がる「挨拶ゲート」を企画し、全校児童に挨拶を啓発した。</li> <li>学年・学級で、「挨拶リーダー」を選び、バッチを付け手本になるようにしたり、「あったか言葉を広める係」を設けて活動したりしている。</li> <li>「家の人と朝おはようを言う」「学校で自分から挨拶をしている」「以前よりも挨拶ができるようになったと思う」の自己評価や保護者評価、教員の評価を毎学期とり、学年便り・学校等で集計結果と保護者のコメントを紹介した。</li> </ul>
<p>最終評価</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>自己評価、保護者からの評価がいずれも80パーセントを超えているが、教員からの評価が32%と低い。</li> <li>保護者に家庭での挨拶の様子を書いてもらったところ、「保護者の方から返事が返ってくるまで言い続ける」というコメントが多かった。</li> </ul>

考 察	<ul style="list-style-type: none"> <li>・前よりも挨拶ができるようになったと感じている児童が多い。家庭では保護者から学校では教員や委員会の児童が挨拶の声をかけているためだと考えられる。</li> <li>・教員からの評価が低い。これは、担任等身近な大人へは挨拶ができるが、その他の教員へは挨拶ができなかつたり返せなかつたりする子供がまだ多いためである。</li> <li>・保護者アンケートから、登校班の子供達同士や近所の人、安全パトロールの方への挨拶等、地域での挨拶ができない子供が多いことが分かった。</li> </ul>
-----	--

### (3) 心と体の健康づくり部会

取り組んだこと	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分の心と体の実態を見つめ、がんばりたいことを意識して取り組んいけるように目当てをもつことを大事にした。</li> <li>・仲良しタイムに、楽しく身体を動かせるよう、子供たちにとって交流の大事な時間となるよう、企画、運動委員会が中心となって様々な運動を提案した。全校が外に出て運動委員会企画の全校鬼ごっこ、縦割り班での「だるまさんが転んだ」を行った。(休み時間の時間確保の効果が大きい)。3学期、仲良しタイムのねらいを再度共通理解し、運動の目当てを立てた。冬季は運動も限られるため、1F 2F 3Fのワークテラスや多目的教室、体育館等で、運動委員会の5、6年生が様々な体を使った遊びの場を提供した。2学期は全校で一度外に出るというきっかけづくりを行ったが、3学期は子供たちが自分たちで活動を選んで参加できるようにした。</li> <li>・姿勢については、学校保健委員会で、健康運動指導士長崎先生を招き、姿勢の大切さや姿勢をよくするための運動について学んだ。姿勢チェック週間を設け、事前指導で、DVDを見て姿勢と心や健康についても詳しく知る機会を設けた。元気タイム後、全校放送を流し、保健委員の声に合わせて、姿勢体操を行った。</li> <li>・持久走大会を行うことで、目当てをもって取り組み、自分の成長を意識できるようにする。また、秋季大運動会に5、6年生代表による1000M走を行うことで、目指す姿を明確にもてるようにした。</li> </ul>
最終評価	<ul style="list-style-type: none"> <li>・時間、場所の確保、目当てを立て、自己決定する場をもつことで、主体的に体を動かす子供たちが増えている。同じ遊びを通して、同学年だけでなく、縦のかかわりも多く見られるようになった。</li> <li>・姿勢体操が定着し、小さな運動が生活の中に位置付いた。元気タイムの後、教師がいなくても自然と自分たちで体操に取り組むことができている。</li> </ul>
考 察	<ul style="list-style-type: none"> <li>・身体を動かすことを楽しむには、時間、場所、仲間を確保すること、めあてをもつこと、自己決定の場を大事にすることが、とても大切であった。</li> <li>・毎週のこの時間を楽しみにしている子供は多い。しかし、実態として、一人で過ごしてしまいがちな子供や、身体を動かすことが楽しめていない子供がいることが分かった。仲間づくりや教師の個別の声かけ等の支援を工夫していきたい。</li> <li>・姿勢体操の成果もあり、日々の声掛けが増え、姿勢をよくしようという意識は高まっている。自己評価の低さは、よい姿勢に対する理解、意識が高まり、自己評価が厳しくなっていることからきているとも考えられる。</li> </ul>